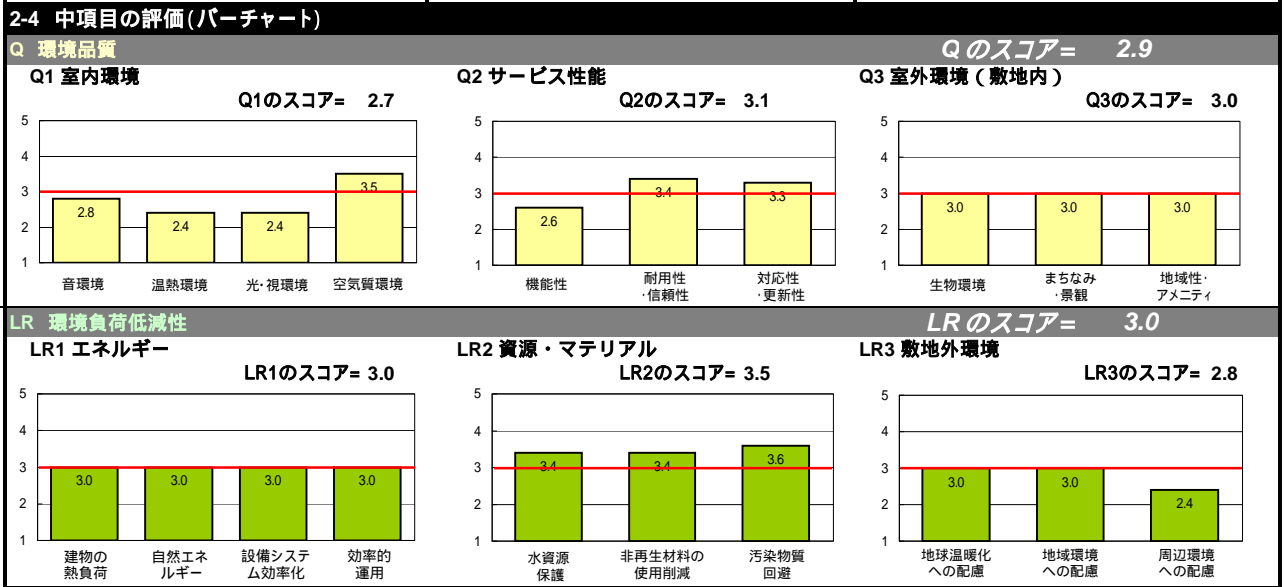
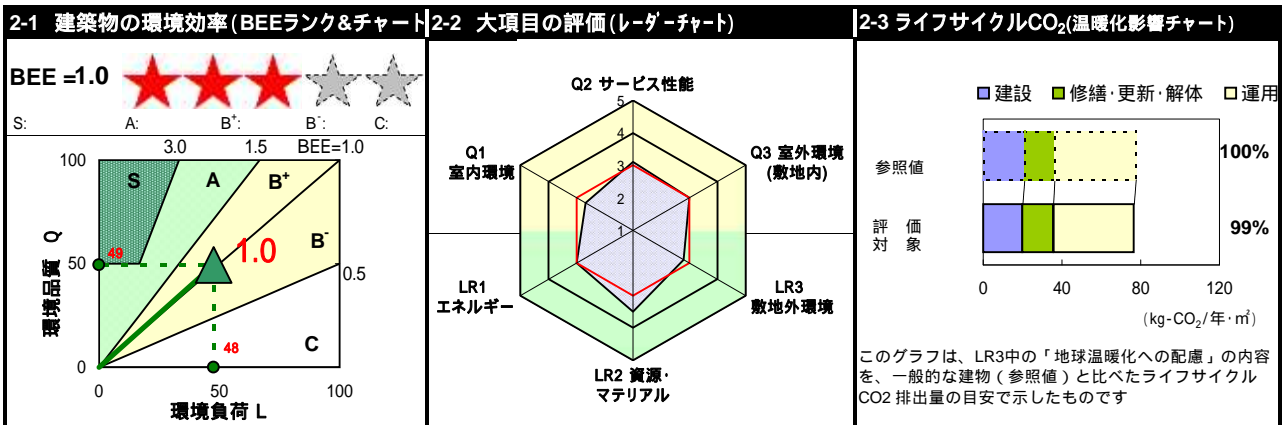


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	グリーンセンター	階数	地上6F、地下2F
建設地	神奈川県秦野市曽屋4624-1 他4筆	構造	SRC造
用途地域	指定無し	平均居住人員	30人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年9月 予定	評価の実施日	2010年8月16日
敷地面積	35,989 m <sup>2</sup>	作成者	中野裕二
建築面積	4,173 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	12,340 m <sup>2</sup>	確認者	



3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 人と環境にやさしい施設づくりを目指し、周辺の生活環境や自然環境の保全を図ります。建物は、弘法山など周辺環境や景観になじむデザインとすると共に、弘法山公園を訪れる人々のための休憩スペースや敷地内通路を確保し、街路樹を整備することで、安全性と快適性を確保します。	<b>その他</b> 工事車両は、低燃費型建設機械を積極的に採用し、さらにアイドリングストップを走行します。
<b>Q1 室内環境</b> 快適な執務環境を計画すると共に、見学者にも配慮して、化学汚染物質の含有の少ない建築材料を用います。	<b>Q2 サービス性能</b> 施設の更新性や機能性に配慮し、階高さや天井高さは通常より余裕を持った計画とし、施設の機能維持のため、耐震性は建築基準法に定められた25%増しとします。
<b>LR1 エネルギー</b> ごみ焼却場の排熱を利用した給湯及び発電設備を設けて、本計画建物の給湯及び場内電力をまかない、省エネルギーに寄与します。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 資源の有効活用のため、節水器具を用いると共に、再利用できる建築材料を用います。また、汚染物質含有材料使用回避のため、断熱材にはオゾン破壊係数だけでなく、地球温暖化係数の低い材料を用います。
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内の樹木は、建物計画に支障の無い限り保存し、前面道路に沿って街路種のある敷地無い歩道を設けます。また、造成法面は緑化を行いません。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 騒音、振動などは、規制基準以下にすると共に、集中豪雨時の河川への急な雨水流入を防止する為、雨水調整池を設けます。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい